

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年10月13日～2014年10月19日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年10月27日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシアとアブハジアとの同盟及び統合に関する協定（14日）

・13日、アブハジアの「公式」通信社であるアプスニプレスのウェブサイト「ロシア連邦とアブハジア「共和国」との間の同盟及び統合に関する協定」の案文テキストが掲載された。

・アブハジア「大統領府報道局」によれば、ハジンバ「大統領」は「議員」に対して、「協定に関する議論及び（ソフミ側の）提案に関する検討は開かれた雰囲気の中で行われ、アブハジア人の利益を考慮しつつ行われる」と述べた。

・ロシアのヴェドモスチ紙は、クレムリン筋の話として、モスクワは、協定案のほとんどの条項はアブハジアとの既存の包括的な協力協定を「拡大し、補完する」ものであり、アブハジアの「主権」と「独立」を害するものではないので、アブハジア側からの否定的な反応を引き起こすものではないと考えている旨報じた。

・協定案によれば、「協力、統合及びパートナーシップ」の基本的方向は、相互に合意される外交政策の実施、「共通防衛・安全保障空間」の創設、「共通社会・経済空間」の創設である。

▼アブハジアとロシアとの「新協定案」に関するマルグヴェラシヴィリ大統領の国会での発言（17日）

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、仮にアブハジア「政府」が「新協定案」を承認した場合には、グルジア議会及び国際社会に対し、迅速かつ明確に反応するよう要請した。「かかる文書の施行は、黒海およびコーカサス地域の安全保障環境を悪化させ、グルジアの国防の脅威となり、また、人道状況および人権保障を悪化させる。グルジアの一体的な部分としてのアブハジアの将来を、現実の危険が脅かしている」旨、16日に実施された（国会での）特別会合において大統領は発言した。同大統領は、本件に関し早急に議論し、声明を準備するよう国会に対し要請した。「国会の立場に基づき、安定化に向けたさらなる措置を計画するために国家安全保障会議が開催される。」と大統領は述べた。

▼「新協定案」に対するアブハジア側反応（17日）

・アブハジア「議会」議員は、類似の文書に署名することは必須であろうが、現在提示されている「協定案」は、完全に受け入れられないことを認めた。「我々は、ロシア

との統合は必要で、ロシアは戦略的なパートナーであると認識している。しかし、このことは、アブハジアが主権を喪失すべきであることを意味しない」旨、ブガンバ・アブハジア「議会議長」は、ラジオインタビューに答えた。

・ブジャニア・アブハジア「議員」は、ロシアがアブハジアの教育、文化および言語問題に至るまで干渉しているとし、「これらは、我々の主権の不可避な構成要素である。」と述べた。

・「協定」は、ハジンバ・アブハジア「大統領」の完全な支持を得ている。同「大統領」は、アブハジア「政府」および軍人の中で、公に右「協定」を促進している。ハジンバ「大統領」は、右「協定」は、地域の将来のために署名されなければならないと述べた。

▼グルジア国会がアブハジア情勢に関する声明を採択（18日）

・17日、国会は、アブハジアとの新しい「同盟と統合」に関する協定を通じて、「被占領地であるアブハジアを併合しようとするロシアの試み」を「非難する」声明を採択した。

・声明では、ロシアが提案する協定が署名されるような事態になれば、「国際法規範の新たな違反の波を引き起こし、地域の安定に追加的な脅威を与え、ロシアとグルジア間の関係正常化のプロセスを大いに損なうことになる」としている。

・声明は、与党連合「グルジアの夢（GD）」によって提案されたが、野党の「統一国民運動（UNM）」は支持せず、ロシアとの非公式な協議を取りやめるよう求める独自の声明案を提示した。UNMの声明案は、モスクワに対する「非生産的な」政策についても見直すよう政府に求めている。この声明案は多数派のGDによって否決された。

・国会での審議とそれに続く声明は、クレムリンが提案したアブハジアとの協定案に対して行動を起こすようにとのマルグヴェラシヴィリ大統領の国会への呼びかけに応じたものである。マルグヴェラシヴィリ大統領が金曜日（17日）に出した文書による声明では、「悪化する軍事・政治情勢においてグルジアの防衛のための協調行動を策定するために」大統領は10月28日に国家安全保障会議を招集するとしている。

・国会声明は、国際社会に対しても「あらゆる手段を使って国際社会の秩序と法規範を守るための努力を結集する」よう呼びかけている。

・同声明は、また、グルジアの欧州・欧州大西洋統合は

アブハジアの人々の利益を完全に保護することになるとしている。

2. 外 政

▼米海軍の第6艦隊旗艦「マウント・ホイットニー」がバトゥミに寄港（14日）

- ・14日、米海軍第6艦隊旗艦「マウント・ホイットニー」が18日までの予定でバトゥミ港に寄港。
- ・当地米国大使館によれば、「マウント・ホイットニー」の訪問は、米国のNATO諸国およびグルジアのようなパートナー国との関係を強化することをコミットしている。『マウント・ホイットニー』は、滞在中、グルジア海上警備隊と共同訓練を実施し、船上視察、コンサートやレセプションを実施する。
- ・「マウント・ホイットニー」の寄港は、今回が3回目となる。初寄港は、ポチ港にて人道支援にあたるため、グルジア・ロシア紛争直後の2008年9月初旬に、2回目の寄港は2013年11月に実施された。

▼ペトリアシヴィリ欧州大西洋統合大臣がポーランドを訪問（15日）

- ・ペトリアシヴィリ欧州大西洋統合大臣が、NATO主催の政治および安全保障に関するセミナーに出席するためにポーランドを訪問。第87回となる同セミナーは、「東欧：新たな政治と安全保障の課題」が主要な議題であり、ペトリアシヴィリ大臣は、グルジアの民主化及び欧州大西洋統合プロセスについてスピーチを実施した。

▼ポーランドの国防次官がグルジアを訪問（16日）

- ・クピエチキ・ポーランド国防次官に率いられた国防省の代表団が、グルジアを公式訪問した。
- ・アラサニア・グルジア国防大臣が、国防省において代表団を迎えた。会合において、両者は、ポーランドとグルジアの将来の防衛協力やウェールズNATOサミットにおいてグルジアに与えられた実質的なパッケージの重要性について協議した。クピエチキ次官は、グルジアのNATOメンバーシップに向けた支援をアラサニア国防大臣に約束した。
- ・また、クピエチキ国防次官は、ダルチアシヴィリ・グルジア国防次官と会談した。両者は、二国間協力の現状およびグルジアとポーランドとの防衛分野における将来の協力及び関係深化について協議した。ポーランド側は、グルジアの特殊作戦部隊および軍警察の養成分野でのグルジアに対する支援を約束した。

▼アバシゼ対口関係首相特別代表とカラーシン露外務次官との会談（16日）

- ・16日、プラハにて、アバシゼ対口関係首相特別代表とカラーシン露外務次官との協議が行われた。
- ・これまでの協議では、貿易および経済関係が議論の中心であったが、今回の協議では、議題のトップにロシア

提案のアブハジアとの「同盟と統合」協定があげられた。

- ・協議の後、カラーシン次官は、「協議のマandat外ではあるが、グルジア側は激しく本件を取り上げた」と述べ、ロシアはアブハジアとの新たな協定を持つ意図を追求すると述べた。
- ・アバシゼ特別代表は、グルジア側とロシア側は、ロシアが計画しているアブハジアとの協定に関し「完全に異なる」見解を持っていると述べた。また、同代表は、カラーシン次官に、右協定への署名により、我々が開始した対話は複雑化し、危険にさらされると説明した。グルジアは、仮に署名がなされた場合、右協定は法的な帰結として、アブハジアの併合に向けた一歩となると評価している。また、グルジアは、右プロセスに国際社会を最大限関与させるよう試みることを説明した。」と述べた。
- ・グルジア側とロシア側はともに次回の協議の暫定日程さえ決まらずに協議を終えたとした。

▼ギリシャ裁判所がグルジア政府の元内務省高官の引き渡し請求を却下（16日）

- ・16日、ギリシャの港町のパトラス裁判所は、複数の犯罪容疑でグルジアで指名手配されているダタ・アハライア元内務省安全保障局長の引き渡し請求を却下した。アハライア氏は、偽造旅券所持のため、パトラスにて拘留されていた。
- ・アハライア氏は、引き渡し要求却下の決定の後、右決定は、(グルジアでの訴追は)「政治的訴追であることを再確認したものである」と述べた。
- ・3月、トビリシ市裁判所は、アハライア氏を2005年の警察官暴行関連事件において越権行為を行った罪で、不在裁判にて3年9ヶ月の懲役の判決を下した。アハライア氏は、他の殺人事件でも有罪とされている。
- ・ダタ・アハライア氏は、2012年11月から未決拘留のバチョ・アハライア前国防大臣の弟。

3. 内 政

▼国家安全保障会議の刷新に関する議論（15日）

- ・現在議論されている国家安全保障会議を刷新する法案は、安全保障に関する大統領権限に更なる制限を加えるものである。右案が通れば、現行法では大統領の権限である国家安全保障構想案のグルジア議会への準備及び提出が政府の権限に移る。
- ・クマラゼ法律問題委員会議長は、右法案は、大統領の権限に更なる制限を加えることとなるが、「グルジア憲法に完全に合致している」と述べた。

▼統一国民運動（UNM）がグルジア市庁舎で抗議集会（16日）

- ・15日、UNMのメンバーおよび市役所からの解雇者が、トビリシ市庁舎前にて抗議集会を実施した。集会参加者は、解雇された職員が不当解雇であると裁判所に申し立てをしている中で実施されているとし、(新規の)市

役所職員採用手続きを中止するよう要求した。

▼議会により最高裁判事2人が承認（17日）

・17日、マルグヴェラシヴィリ大統領により指名された最高裁判所判事候補者であるニノ・バカクリ氏およびズラブ・ズリエリ氏が、それぞれ93票、99票を得て国会により承認された。任期は10年。

・両判事は、本年8月上旬に大統領から指名されたものの、与党である「グルジアの夢」により承認されず、先月大統領により再指名されたという経緯がある。

・17日、マルグヴェラシヴィリ大統領は、「不偏、独立および高い資格を有する専門家」が司法に加わった旨、両判事の議会による承認を歓迎する声明を発表した。

4. 経 済

▼2014年末にバクー・トビリシ・カルス鉄道の試運転（13日）

・2014年末に向けバクー・トビリシ・カルス鉄道の試運転が計画されている。右鉄道ラインは、アゼルバイジャン、グルジア及びトルコの鉄道システムの連結を設

計されており、2015年に開通予定。

・グルジアとトルコ間の鉄道トンネルは4450mであり、そのうち2560mがトルコ内である。トルコ内トンネルの建設は既に完了し、グルジア内部分は現在建設中。

▼オデッサ-バトウミ間フェリー就航（15日）

・10月15日、「Ukrferry shipping company」が、イリチェフスク（ウクライナ）-コンスタンタ（ルーマニア）-バトウミ（グルジア）間のフェリー定期便を就航させた。

▼欧州投資銀行（EIB）がトビリシに本部を開設予定（17日）

・EUの主要な金融機関であるEIBが、地域本部事務所をトビリシに開設する。ハドゥリ財務相が14日にワシントンにてモルテラーEIB副総裁と会談した後で発表された。

・2012年、EIBは、トビリシと黒海沿岸の港を連結する主要インフラである東西ハイウェイに170百万ユーロの借款を供与した。